

## 夢や希望の実現に向けて ともに歩む学会をめざして

一般社団法人日本精神保健看護学会第2期理事長  
田上 美千佳  
(東京医科歯科大学大学院)



2015年6月26日より一般社団法人日本精神保健看護学会第2期役員が発足しました。本学会設立から通算第10期ということになります。

本学会は、1990(平成2)年に設立発起準備委員会が発足し、この年の9月には発起人会・記念フォーラムが開催され、1991年に学会が設立されました。当時は、看護系大学がわずか11校であり、看護系専門学会も数少ない中での誕生でした。稲岡文昭初代理事長(現名誉会員)のもと、日本赤十字看護大学に事務局をおき、池田明子副理事長(現名誉会員)、理事10名、監事2名の第1期理事会体制でした。

私は、上司であられました稲岡文昭先生の元で、1990年6月の第1回設立発起準備委員会の準備段階から本学会に携わらせていただき、第1期、第2期理事として事務局を担当して、創設期の本学会とともに歩んで参りました。本学会の設立までには、学会名を何とするのかというようなことも一つ一つ検討され、本学会が構築されて参りました。当時の理事会は夜遅くまで熱い議論や検討が行われておりました。私の記憶では、少し前のことのように思われますが、学会設立から四半世紀が経過しましたことは感慨深いものがございます。1991年には会員数が200名を超え、第1回目の学術集会には284名の参加がありました。学会事務局業務を行っていた私は、会員の皆様のお顔とお名前が一致するように、本学会を通じてたくさんの方に出会い、多くを学ばせていただき、時に励ましていただきながら、まさに、本学会に

育てていただきました。会員の皆様は当時から積極的で、精神保健看護に対する熱意や学びたいという意欲をお持ちでした。その後会員数は、1999年には500名を越え、2010年に947名となり、現在は、1,300名近い会員数を有する国内唯一の精神保健看護学会を専門とする学術団体として発展しております。第25回(2015年)学術集会の参加者数は900名を超えました。本学会の発展は、理事、代議員(旧:評議員)、そして会員の皆様のご協力とご尽力の賜物です。

2015年4月に、野末聖香前理事長のもとで一般社団法人日本精神保健看護学会となり、これまで以上に社会的な役割と責任を担った学術団体として、新たな一歩を踏み出しました。

本学会は設立当初から、ひとりひとりが参加する学会として、同じ専門領域の人々とのつながりの中で学びあうことを大切に参りましたが、その志向は現在も変わることはありません。また、実践の場の発展に貢献する学会であり続けたいと考えています。

微力ではございますが、会員の皆様にとっての拠り所となる学会として機能することはもとより、精神保健看護の対象となる方々の夢や希望の実現に向けて会員の皆様とともに歩むことのできる学会として、本学会の更なる発展を目指し、精一杯、力を尽くして参りたいと存じます。

会員の皆様、どうぞお力添え、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

# 第25回学術集会を終えて

第25回日本精神保健看護学会学術集会実行委員長

田中留伊

(東京医療保健大学東が丘・立川看護学部)

日本精神保健看護学会第25回学術集会・総会【新たな精神保健看護の開発を求めて】が、2015年6月27日(土)～28日(日)につくば国際会議場にて開催されました。

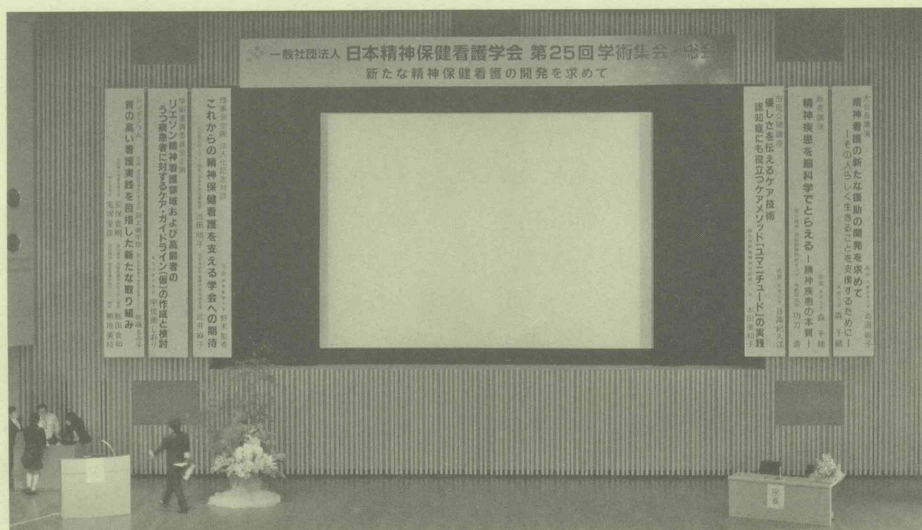
一日目午前には、森千鶴大会長による大会長講演【精神看護の新たな援助の開発を求めて—その人らしく生きることを支援するために—】が行われ、次いで、功刀浩先生による教育講演【精神疾患を脳科学でとらえる—精神疾患の本質—】が行われました。午後からは本田美和子先生による市民公開講座【優しさを伝えるケア技術認知症にも役立つケアメソッド「ユマニチュード」の実践】が行われました。ユマニチュードの開発者イブ・ジネスト氏にもご参加いただき、市民からは「市民に開かれた学会に感謝します」などのご意見をいただきました。本学術集会では災害支援特別委員会活動報告や学術連携委員会企画など、日本精神保健看護学会が企画するプログラムを設けました。その中でも二日目の午前には、法人化記念対談が行われ【これからの精神保健看護を支える学会への期待】というテーマで池田明子先生、武井麻子先生に対談をしていただきました。最後のプログラムで

はシンポジウム【質の高い看護実践を目指した新たな取り組み】を行い、4名のシンポジストから臨床現場での新たな取り組みについてご発表いただきました。

今大会では、一般演題が多く発表される場にしたいと考え、ポスター発表を提案致しました。その結果、一般演題130題(口頭発表63題ポスター67題)と多くの方に発表にして頂けたと考えております。また、ワークショップも二日間で20題と数多く開催することができました。

少し遠いイメージのあるつくば市での開催であり、不安もございましたが、900名を超える参加者と一般市民を含め1,000名を超える参加があり、無事に開催させていただけましたことを心より感謝申し上げます。至らなかつた点につきましては、お詫び申し上げますと共に、次年度の大会に引き継ぎができればと考えております。

最後にニューズレターの紙面をお借りしまして、学術集会運営に携わって下さった実行委員やボランティアの皆様へ深く御礼申し上げます。また、学術集会に参加して下さった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 功刀浩先生の教育講演

第25回日本精神保健看護学会学術集会長

森 千鶴

(筑波大学医学医療系)

本年6月27日、28日につくば国際会議場で日本精神保健看護学会第25回学術集会を開催させていただき、教育講演は初日に行われました。本大会では、国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部長である功刀浩先生に「精神疾患を脳科学でとらえるー精神疾患の本質ー」というテーマで教育講演をお願いいたしました。功刀先生は現在、山梨大学・早稲田大学の客員教授、東京医科歯科大学連携教授を兼任されておられ、神経認知学の進展に寄与されておられます。先生のご著書である「精神疾患の脳科学講義」「図解やさしくわかる統合失調症」「今あるうつが消えていく食事」を読ませていただきました。功刀先生のご著書から神経認知機能や脳内ホルモンについて理解することができ、生物学的な理解の重要性を実感しました。

私は、対象者の状態を的確に捉えてアセスメントすることが重要であるにもかかわらず、神経認知機能などの理解が十分ではないと感じておりました。また対象者の状態をきちんとアセスメントすることができていないために根拠に基づいた看護を行えていないのではないかと感じておりましたので、本大会での教育講演を依頼したところ、ご快諾いただき嬉しく思いました。

ご講演では、統合失調症の認知機能障害である記憶力、知能、実行機能の障害、感情処理障害、運動能力の低下などについて功刀先生ご自身の研究で得られた知見からわかりやすく解説いただきました。また、統合失調症者は、肥満、喫煙、メタボリック症候群などで心血管疾患になりやすい

こと、改善するためには定期的な身体活動と食生活の改善が必要なことをデータで示して教えてくださいました。またこのような食生活の改善と身体活動は海馬や認知機能にも良い影響があり、脳機能の改善にもつながることを脳のメカニズムを踏まえて解説していただきました。

今回のご講演の内容は、私たち看護師にとって看護の方向性を示唆いただけるような内容であったと思います。また神経認知機能など脳の機能を十分に理解した上で、看護を提供する必要性があると改めて感じました。会場にいらした会員の皆様も先生のご講演を熱心に聴いておられました。

本大会から2ヶ月半後の9月、同県の常総市で豪雨により鬼怒川の堤防が決壊し、大水害に見舞われました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。



## シンポジウム

## 質の高い看護実践を目指した新たな取り組み

第25回学術集会シンポジウム座長 佐藤 るみ子  
(国立病院機構下総精神医療センター)

日本最大の学術都市のつくば国際会議場で、今年  
は学会二日目の最後にシンポジウムが行われまし  
た。

その2ヶ月半後、豪雨による鬼怒川の堤防決壊  
で、常総市をはじめ広域に大規模水害に見舞われ  
てしまいました。被災された方々には、心よりお見舞  
い申し上げます。

シンポジウムは、今回の学会テーマ「新たな精神  
保健看護の開発を求めて」に、相応しい実践内容で  
した。

安保寛明さんは、盛岡市にある民間の精神科病院  
で5年間、多職種とピアサポーターとの連携により  
デイケアとアウトリーチの統合を実践され、従来の  
患者を「治す」「改善する」といった介入者主導の  
促しから、当事者の魅力が発揮される場をつくり、  
心理社会的治療を重視したことで、長期入院者の就  
労促進、10年以上の再入院回転ドア現象者の地域  
定着化等、卓越した精神保健活動の社会実装モデル  
を紹介して下さいました。

鬼塚愛彦さんは、八王子市にある民間の精神科病  
院の看護副部長の立場から、「地域医療の一員とし  
ての精神科病院」を目指し、児童から高齢者を対象  
に、独立した訪問看護ステーション設置、外来から  
リハビリ含めた包括的機能の充実のための各種セ  
ンター設置等において、現場での看護実践に対し  
て、利用者の満足度、安全性の確保、倫理的配慮等  
の結果を重視した指導、専門性と質向上への仕組み  
の構築等、豊富な経験から培われた看護管理の実践  
を紹介して下さいました。

熊地美枝さんは、精神・神経センター病院の専

門看護師として働く立場から、統合失調症発症2  
年以内の対象に、SDM (Shared Decision Making)  
の推進を目指し、患者と共に作り上げていくEDICS  
NOTEという手帳を活用した心理教育を実施。診察  
場面での話し合いに手帳を活用することで当事者  
が参加しやすい工夫、セルフモニタリング・お守り  
プラン等を当事者と共に作成したことが、治療に主  
体的に参加する意識の変化や、自分でマネジメント  
できそうな感覚、自己効力感を高めるきっかけと  
なった専門性の高い実践を紹介して下さいました。

瓶田貴和さんは、前任地である小諸市の公的な精  
神科病院の看護師長の立場から、医療観察法病棟に  
おける服薬アドヒアランス向上に向けた取り組み  
として、重大な他害行為を行った対象者に社会復帰  
後の再発予防のための服薬中断プログラムは、ある  
程度の効果を示す一方、看護師の心理的負担が大き  
い現実がある。看護師のプログラム介入時の感情に  
焦点をあて質的に分析した結果、中断への自責感、  
病状悪化時の不安感等が共有でき、今後効果的なプ  
ログラム実施を期待できる充実したマンパワーで  
あればこそ可能な実践を紹介して下さいました。

いずれも対象者の持っている力を活用し、その人  
らしく生きることを支えるための新たな取り組み  
としてのメッセージを伝えられたと思います。学会  
最後のセッションにも関わらず大勢の参加があり、  
多くの質問が出るなど、「質の高い看護実践」を共  
有できた有意義な場となりました。

この場を作るために、本学会の運営に尽力された  
会長はじめスタッフの皆様には、感謝申し上げます。

## 学術連携委員会からのお知らせ

学術連携委員長 宇佐美 しおり

いつも委員会活動では皆様には大変お世話になります。6月に学術連携委員会も新体制となり、副委員長を遠藤淑美先生（大阪大学）、委員を岡谷恵子先生（東京医科大学看護学科）、濱田由紀先生（東京女子医科大学）、福嶋好重先生（横浜市立市民病院）、河野伸子先生（横須賀共済病院）、石飛マリコ先生（熊本大学）にお願いし、スタートすることとなりました。どうかよろしくお願いたします。今日は学術連携委員会から3つの報告をさせて頂きたいと思います。

学術連携委員会では、昨年度から今年度に向け、精神科病院での「老年期のうつ病患者・家族への対応」とリエゾン精神看護領域において、総合病院における「身体疾患を有し精神状態が不安定な患者への対応」に関するケア・ガイドラインを作成しました。前者は、精神科病院において、回復が難しく自宅への移行が困難な老年期うつ病患者が多いため、作成することとしました。またリエゾン精神看護領域においても、身体疾患を有している患者の3～4割、がん患者にあたっては6割の患者が程度は異なるもののうつ状態を有しているという報告もあるため、総合病院や、一般科の病棟で活用できるようケア・ガイドラインを作成しました。基本的な対応の仕方、またよく問題となる場合の対応についても、わかりやすく記載したつもりです。これらにつきましては、今年度の森千鶴大会長のつくばでの学術集会で報告をさせて頂き、会員の皆様からご意見を頂きましたので、それらのご意見を反映させ最終版といたしました。学会誌への掲載を準備しておりますので、ぜひ各病院でお使い頂き、さらにご意見を頂ければと考えています。

さらに、8月30～31日に、日本精神保健看護学会と日本総合病院精神医学会が合同で、精神科リエゾンチーム講習会を開催させて頂きました。竹橋の一橋講

堂で開催いたしました。66名の参加で、田上美千佳理事長にもご挨拶を頂き、開催をいたしました。講演は東日本NTT病院の秋山剛精神科部長に、精神科リエゾンチームにおけるグループダイナミクスや困難な点、まだ困難の乗り越え方に関するご講演を頂き、大変好評でした。1日目はリエゾンチームをこれからはじめようとしている方々へむけて、実際のリエゾンチームの運営、課題などについて共有を行い、2日目は実際リエゾンチームを運営されている方々を主な対象とし、事例検討、模擬カンファレンスを実施いたしました。99%の方々から満足～大変満足の回答を頂き、また大変わかりやすかったとのご意見を頂きました。今後、ロールプレイなども取り入れ、実際、ケア困難患者にどう対応していけるのか、をさらに検討していきたいと考えています。

また、7月に平成28年度診療報酬改定にむけて、4つの申請を行いました。看護のあり方検討会からは、①精神科リエゾンチームの算定回数の増加、②精神科訪問看護以外の訪問看護ステーションで身体疾患を有する患者で抑うつや不安、適応障害を有する患者への専門性の高い看護師による訪問の加算（認知症を除く）\*日本訪問看護財団、日本在宅ケア学会と共同で提出、③精神障害者の1年以上の長期入院予防のための療養マネジメントチームの評価を提出しました。また医療技術評価からは、④訓練を受けた看護師による認知行動療法への評価を、岡田佳詠先生のご協力のもと、提出いたしました。8月に④の厚労省ヒアリングがあり、また①につきましては、資料の提示を求められました。まだ第一次審査結果がわかりませんが、時代の要請に応えられるよう、申請が通ればと考えております。

皆様には、今後、様々な形でまたご協力いただきませんが、今後とも引き続き、よろしくお願いたします。

## 教育活動委員会からのお知らせ

教育活動委員長 野末聖香

教育活動委員会は、会員の教育・研究の推進に資すべく、研修会（講演、シンポジウム、ワークショップ等）の企画・運営や若手会員のための研究助成活動等を行っています。7月に委員が一新し、早速研修会の企画・運営をスタートしました。今期は精神障害者の地域生活を支えることに関連したテーマで研修会を企画しています。平成27年10月17日（土）には、「精神障害者の地域移行に関する理解と実践を促進するために－看護教育・実践現場での具体的取り組み－」（会場：慶應義塾大学信濃町キャンパス）をテーマにシンポジウムを開催しました。ほぼ満席（約70名）のご参加をいただき、課題の共有と今後の具体的取り組みに関する有意義なディスカッションができました。今後の研修スケジュールは下記の通りです。随時学会ホームページやニュースレター、会員マイページなどでご案内しますので、ぜひご参加ください。

また、若手会員のための研究助成についても引き続き実施いたします。この研究助成は、精神看護学研究者の育成のために、研究費用の一部を助成し、その研究成果により精神看護学の発展に寄与することを目的としています。嬉しいことに、助成を行った研究は学会での演題発表や学会誌への論文掲載につながってきています。ただ、例年応募数が少ないという現状がありますので、若手の皆様にはぜひチャレンジしていただきたいと思います。今期の募集期間は、平成27年12月14日（月）から平成28年1月8日（金）です。詳細は学会ホームページをご覧ください、ふるってご応募ください。

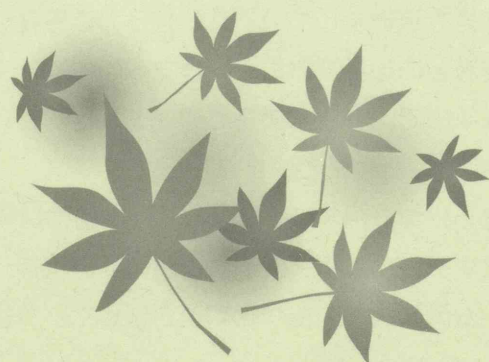
今期も、教育活動委員会へのご協力をどうぞよろしくお願いします。

### 【今後の研修会】

- ・平成27年11月28日（土）：「シンポジウム－臨床と在宅をつなぐ看護の取り組みと教育への導入」（会場：金沢医科大学医学教育棟4階講義室）
- ・平成28年1月9日（土）：「シンポジウム－WRAPを取り入れた訪問看護ステーションの実際と看護教育」（会場：大阪医科大学）
- ・平成28年1月23日（土）：「講演、対談、グループワーク－リカバリー志向コミュニティにおける多様な援助関係」（会場：宮城大学地域復興サテライトキャンパス（予定））

### 【教育活動委員】

野末聖香（委員長）、長谷川雅美、安保寛明、大川貴子、大熊恵子、福田紀子、田中浩二、長山 豊、笥 亮子、緑川 綾



## 理事会・評議員会・代議員会・総会報告

平成27年6月26日に、つくば国際会議場において平成26年度第5回理事会、および評議員会を開催しました。任意団体として最後の理事会、評議員会であり、平成26年度の事業報告、収支決算報告とともに、平成27年4月1日に一般社団法人日本精神保健看護学会が設立されたことが改めて報告されました。そして同日、第1期臨時代議員会を開催し、以下の内容が議決されました。

1. 平成26年度事業報告および収支決算報告
2. 平成27年度事業計画

第26回学術集会の開催、学会誌およびニュースレターの発行、ホームページの運営、学術連携に関する活動、研修会やワークショップの企画、研究助成事業など、従来の活動を継続。災害支援特別委員会は、平成26年度をもって解散するが、活動の成果の一つである「精神科病院で働く看護者のための災害時ケアハンドブック」の会員への配布を計画。

3. 平成27年度予算
4. 第2期役員

また研究助成事業では、以下の2件の研究が採択され、報告されました。

1. 研究代表者 石井慎一郎氏（自治医科大学）  
精神科看護職の他者との“かかわり”とエンパワメントとの関係の検討（240,000円）
2. 研究代表者 竹原歩氏（兵庫県立大学）  
看護学生に対する自己理解と他者理解の深まりを意図したコミュニケーション技術演習のプログラム作成（260,000円）

さらに、平成27年6月28日には、つくば国際会議場大ホールにおいて、総会が開催されました。今年度で第25回を迎えた総会は、任意団体から一般社団法人への移行期にありましたので、まず平成26年度事業報告、収支決算、そして任意団体としての日本精神保健看護学会から一般社団法人への財産の譲渡と、解散が議決されました。その後、野末聖香理事長による任意団体解散の宣言がなされ、引き続いて、大スケールの映像とともに会場の大きな拍手のなかで、一般社団法人日本精神保健看護学会の設立を祝いました。

法人化後は、代議員会が議決機関となりますが、「学会総会」を通して、本学会の活動を報告するとともに、会員の皆様のご意見をいただき学会活動に反映させていくことが確認されました。

（第1期理事会総務担当：小高恵実・福田紀子）

### 第2期理事・監事

|               |        |               |                |
|---------------|--------|---------------|----------------|
| 理 事 長         | 田上美千佳  | 広 報 委 員 長     | 岩瀬 信夫          |
| 副 理 事 長       | 永井 優子  | 担 当 理 事       | 瀧川 薫、安保 寛明（兼）  |
| 会 計 担 当       | 宮本 有紀  | 教 育 活 動 委 員 長 | 野末 聖香          |
| 学 術 連 携 委 員 長 | 宇佐美しおり | 担 当 理 事       | 長谷川雅美、安保 寛明（兼） |
| 担 当 理 事       | 遠藤 淑美  | 総 務 委 員 長     | 江波戸和子          |
| 編 集 委 員 長     | 岡田 佳詠  | 担 当 理 事       | 森 真喜子、美濃由紀子    |
| 担 当 理 事       | 永井 優子  | 監 事           | 武井 麻子、夢喜田恵子    |

## 第26回学術集会のご案内

このたび、日本精神保健看護学会 第26回学術集会を滋賀県大津市において2016年7月2日と3日の両日で開催させていただきますことを、心より感謝申し上げます。

メインテーマを「こころと身体（からだ）と社会を紡ぐ精神保健看護」とし、広義の精神保健看護における実践性と更なる可能性について考える機会にしたいと考えます。

ストレスフルな現代社会では、代償的対処行動の過食がメタボリックシンドロームに、飲酒や喫煙は依存症につながる可能性があります。社会病理現象は、結果的に様々な精神病理や身体病理に関わります。それらの関連性に着目し、基調講演では高知県立大学学長の南裕子先生を、教育講演については社会学者の上野千鶴子先生をお招きして、貴重なお話を伺います。シンポジウムも、精神保健看護の現状と今後を確認するため、サイコオンコロジーやサイコネフロロジー、リエゾン精神看護の研究者・実践家からご報告いただきます。

JR京都駅から在来線で10分程度の最寄り駅にも程近い湖畔に建つびわ湖ホールとピアザ淡海を会場とし、眼前の雄大な琵琶湖や比叡山系といったロケーションもお楽しみいただけます。また、近江牛や鮎寿司のような食文化にも触れてみて下さい。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。おもてなしの心でお迎えしたいと思います。今後の詳細はホームページで適宜アップしていきます。

学術集会会長 瀧川 薫  
(滋賀医科大学)

### ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を秘録募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報のご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々で共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただきます。皆様がらのご寄稿をお待ちしております。

The Japan Academy of  
Psychiatric and  
Mental Health Nursing  
*News  
letter*

編集後記

▼梅雨時の筑波の大会での役員の交代から、あっというまに紅葉の季節に変わってしまいました。今夏は豪雨や火山活動などでの被害を耳にします。被害に遭われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。また、東北の復興が一日も早く進むよう祈ります。今回のニュースレターでは役員の改選があり、新理事長のご挨拶を最初におき、その後第25回学術集会の記事や学術連携委員会、教育活動委員会の記事を置くようにいたしました。横浜に引き続き筑波でも1,000人を超える学術集会が開催されるようになり、会員の皆様のご参加をとっても心強く感じております。また、新たな学会の運営や取り組みも予定されていますので、このニュースレターで学会の歩みを皆様にお伝えできるよう努力したいと思います。

編集員：岩瀬信夫・瀧川 薫・中戸川早苗・糟谷久美子

広報委員会 広報委員長：岩瀬 信夫 広報委員：瀧川 薫、安保 寛明（兼務）、中戸川早苗、糟谷久美子  
(お問い合わせ先) メールアドレス：iwase@nrs.aichi-pu.ac.jp

TEL/FAX：052-778-7126